

平成20年度
石狩浜海浜植物保護センター活動報告

石狩浜海浜植物保護センター

目次

事業概要	．．．．．	1
1．普及活動	．．．．．	1
2．調査・研究	．．．．．	5
3．見本園の整備・苗の育成	．．．．．	7
4．環境整備事業	．．．．．	9
5．来館者数	．．．．．	10
6．保護・回復対策	．．．．．	11
資料		
行事参加者アンケート結果	．．．．．	13
センター利用者アンケート結果	．．．．．	15
沿革		
海浜植物保護センター開設の目的	．．．．．	16
施設と業務内容	．．．．．	16
管理運営・組織図	．．．．．	17

事業概要

石狩浜海浜植物保護センターは、石狩浜の植生の保護及び回復を目指して、自然環境保全意識の普及啓発、調査研究、植生の保護・回復対策などに、市民、研究機関と協働で取り組んでいます。

普及啓発は、観察会や企画展の開催、ボランティアの育成のための講座、学校等への学習指導、常設展示および通信誌やHP上での情報発信がおもな内容です。

調査研究では、海浜植生の回復方法を探るための試験、長期的な植生のモニタリング、動植物の定期観察などに取り組んでいます。

保護・回復対策では、植生保護柵の設置及び保護区における監視員の配置、一部地域での外来植物の除去作業などを行っています。

その他、見本園や観察路づくり等の環境整備等に取り組んでいます。

1. 普及活動

1. 自然観察会等

平成20年度は、以下のとおりです。

表 1-1 平成20年度自然観察会等の開催状況

■石狩浜野鳥観察会
5月10日（土） 参加者11名 はまなすの丘を散策し、野鳥を観察。 講師：樋口 孝城さん、樋口 陽子さん（石狩鳥類研究会）
■石狩浜自然観察会
5月31日（土） 参加者20名 はまなすの丘の自然観察。 講師：瀬野 一郎さん（いしかりガイドボランティアの会）
■石狩浜自然観察会
6月14日（土） 参加者24名 はまなすの丘の自然観察。 講師：安田 秀子さん、芳賀 正志さん（自然観察指導員）
■石狩浜こども自然教室
6月22日（日） 参加者20名 クイズやネイチャーゲームで石狩浜の自然について理解を深めました。 講師：石田 哲也さん、我妻 庄三さん（さっぽろネイチャーゲームの会）

■石狩浜自然観察会

7月12日(土) 参加者15名

はまなすの丘の自然観察。

講師：有田 英之、千葉 奈津子(石狩浜海浜植物保護センター)

■夏休みこども自然教室

8月 7日(木)・8日(金) 参加者4名

植物の標本作りや実験を通して、海辺の自然環境への理解を深め、夏休みの自由研究として模造紙にまとめました。

講師：藤 彰矩さん(北海道大学大学院農学院)

■石狩浜野鳥観察会

9月 6日(土) 参加者31名

石狩川河口の砂浜を巡り、シギチドリ類を観察。

講師：樋口 孝城さん、岩崎 孝博さん(石狩鳥類研究会) 共催：川の博物館

■石狩浜こども自然教室

9月20日(土) 参加者31名

ネイチャーゲームで石狩浜の自然について理解を深め、海岸に流れ着いた自然の素材で壁飾りなどのクラフトやハマナスの実のジャム作りを楽しみました。

講師：石田 哲也さん、我妻 庄三さん、吉川 光明さん(さっぽろネイチャーゲームの会)

■冬のこども自然観察会

3月 1日(日) 参加者12名

はまなすの丘の雪原をスノーシューで散策し、動物の足跡や食痕、野鳥等を観察。また、川の博物館で石狩川や茨戸川についての話を聞いた後、茨戸水再生プラザで小鳥を観察。

講師：安田 秀子さん、横山 加奈子さん(自然観察指導員) 共催：川の博物館

2. 目指せ！石狩浜自然案内人

当センターの目的の大きな柱のひとつに「石狩浜の自然の普及啓蒙」があります。この事業を支える人材を育て、活動の場を提供するため、石狩浜をフィールドとして「目指せ！石狩浜自然案内人」事業を表1-2のとおり開催しました。

6月から9月の間に3期行い、期毎に、1日目は子どもたちに自然の見どころや自然の楽しみ方を伝える方法を学び、2日目は子どもまたは親子対象の自然教室でサポーターとして指導実践しました。

実施に当たり、NPO法人教育支援協会北海道(全期)、さっぽろネイチャーゲームの会(第1期、第3期)、北海道大学大学院農学研究院 花卉・緑地計画学研究室(第2期)の協力を得ました。

表 1-2 「目指せ！石狩浜自然案内人」開催状況

	日にち	内容	参加者
第1期	6月14日(土)	・石狩浜自然観察会に参加して、石狩浜の自然を学ぶ ・ネイチャーゲームの体験 ・石狩浜こども自然教室の打ち合わせ	7名
	6月22日(日)	・石狩浜こども自然教室での指導実践 (内容については表 1-1 参照)	5名
第2期	7月31日(木)	・保護センターの展示、海浜植物を学ぶ ・標本作り、実験方法の実習 ・夏休みこども自然教室の打ち合わせ	3名
	8月 7日(木)	・夏休みこども自然教室での指導実践	3名
	8日(金)	(内容については表 1-1 参照)	4名
第3期	9月14日(日)	・秋の石狩浜の自然を学ぶ ・ネイチャーゲーム、ジャム作り、クラフトの体験 ・石狩浜こども自然教室の打ち合わせ	6名
	9月20日(土)	・石狩浜こども自然教室での指導実践 (内容については表 1-1 参照)	5名

3. 展示室、企画展示

平成 20 年度は、前年度に引き続き市民による展示コーナーや休憩スペースなどを充実し、来館者がゆっくりと展示物を鑑賞できるよう努めました。市民による展示コーナーで開催した企画展示は表 1-3 のとおりです。

表 1-3 企画展開催状況

開催期間	タイトル
4月26日～ 5月26日	石狩の朝日・夕陽
5月28日～ 6月23日	はまなすの丘公園の花
6月27日～ 8月 8日	わたしの宝もの作品集
7月16日～ 8月18日	海辺のポスター展
8月19日～ 9月 8日	こども自然教室の報告
9月10日～ 9月29日	石狩砂丘のきのこ
10月 1日～ 11月 7日	石狩浜の花暦～今年の観察報告～

4. 講師派遣事業

平成 20 年度、講師派遣の依頼を受けて指導等を行った事業は表 1-4 のとおりです。なお、センターで行った講義等については、次の項に含めています。

表 1-4 講師派遣状況

日にち	団体名	人数	指導内容
7月 1日(火)	花川北陽幼稚園	69名	はまなすの丘 自然探索
9月26日(金)	花川北陽幼稚園	72名	はまなすの丘 自然探索

5. 施設利用

平成20年度、団体のセンター利用状況を表1-5に示します。

なお、センター施設利用者の意見や感想を13ページに掲載します。

表 1-5 石狩浜海浜植物保護センター団体利用状況

実施日程	利用団体	人数	内容
5月17日(土)	平和幼稚園冒険クラブ	32	センター見学
5月21日(水)	NHK文化センター	43	センター見学
5月22日(木)	北海道教育大学 札幌校	30	研修
5月23日(金)	海岸植物研究会	10	勉強発表会
5月28日(水)	北海道教育大学 岩見沢校	16	研修
6月21日(土)	小樽市博物館	40	研修
7月 4日(金)	教職員互助会研修会	30	センター見学
7月 4日(金)	若葉小学校	17	センター見学
7月14日(月)	石狩小学校	65	センター見学
7月16日(水)	江別第二大麻幼稚園	63	センター見学
7月24日(木)	花川わかば幼稚園	20	苗移植
8月25日(月)	北広島市議会 OB	20	センター見学
8月30日(土)	江別第三小学校	19	センター見学
9月 7日(日)	フォレストウオッチング	40	センター見学
9月 7日(日)	北広島町内会	20	センター見学
9月15日(月)	石狩市緑化推進協議会	10	センター見学
9月17日(水)	石狩小学校	17	センター見学
9月28日(日)	札幌市博物館活動センター	30	センター見学

6. 刊行物・HP

平成20年度に配布した刊行物等の配布状況は表1-6のとおりです。

HPは、<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/>で、イベントや行事、開花状況、自然情報などを中心に配信しています。

表 1-6 刊行物発行状況

刊行物	内 容	配布、頒布場所
通信誌「はまぼうふう」 vol.26、27、28、29	浜の自然情報やセンターの行事予定などを掲載	石狩浜海浜植物保護センターと市内外公共施設
石狩浜自然観察 ハンドブック	石狩浜の自然について、写真、イラストなどで紹介 (A5版30ページ、300円で販売)	石狩浜海浜植物保護センターとはまなすの丘公園 ビジターセンター
リーフレット 「花散策」	はまなすの丘で見られる花を写真で紹介	石狩浜海浜植物保護センター
パンフレット 「石狩浜海浜植物保護センター」	石狩浜海浜植物保護センターの施設紹介	石狩浜海浜植物保護センターと市内外公共施設

7. 海浜植物種子の配布

以前に引き続き、来館者が、自宅の庭など身近な場所で海浜植物を育て、親しみを持つことで、再度石狩浜を訪問するきっかけになるよう、またハマボウフウについては、センター前の砂丘に蒔いてもらうため、海浜植物の種子とともに植物の説明と育て方を書いたシートを来館者へ配布しました。配布した種子の種類と数を表 1-7 に示します。

表 1-7 海浜植物種子配布状況

種類	配布袋数		
	4～6月	7～9月	10・11月
ハマボウフウ	584	754	66
ハマボウフウ（砂）	114	-	-
ハマボウフウ（砂丘播種用）	38	13	0
ハマエンドウ	-	140	-
ハマハタザオ	202	155	-
ハマヒルガオ	189	159	-
エソカワラナデシコ	86	-	-
カシワ（乾燥）	126	28	-
ハマナス	86	286	45

2. 調査・研究

今年度の主要な調査研究は、以下のとおりです。

1. 石狩海岸における利用状況モニタリングと植生回復実験

1) 事業概要

平成20年度より10年間かけて、北海道大学大学院農学研究院がセンターと共同で、海浜植生域でのオフロード車等の走行が植生に及ぼす影響を明らかにするためのオフロード車等の走行量モニタリング調査と、合わせて調査区域から車両等を排除し、侵食穴に砂を埋め戻した上で防風措置を行い、植生の回復と地形変化の変遷を同様にモニタリングしていく事業をスタートしました。調査の場所は、図2-1に示すとおりです。

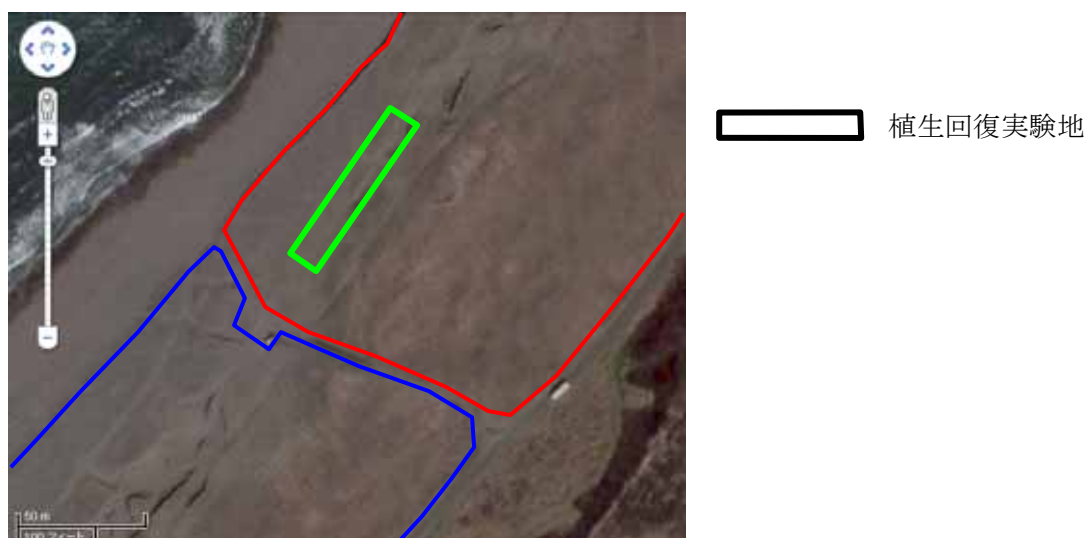


図 2-1 調査対象区域と調査地点

2) 調査結果概要

通行量調査は、8月13日から11月5日まで連続して行い、週平均で8月は、カウンタ上を通過した車両（総数ではありません）が15台程度みられました。以後、9月は10台未満、10月以降は2台程度まで下がりました。

植生回復実験は、調査区域とその周辺の現状植生の比較、地形の形状を調査しました。今後、植生回復がどう進むか推移を見ていきます。地形回復は、10月には風の影響で埋め戻した砂の移動が見られました。（参考：『石狩海岸における利用状況モニタリングと植生回復実験』平成20年の中間報告（北海道大学大学院農学研究院 園芸緑地学分野 花卉・緑地計画学研究室）より）

2. 日本造園学会 平成20年度全国大会 ミニフォーラムでの話題提供

平成20年度、「海岸景観と海岸植物群落の保全を考える」をテーマに北海道大学で開催された日本造園学会ミニフォーラムで、当センターは、「石狩浜海浜植物保護センターの保護活動と環境教育」と題して、話題を提供しました。内容は、センター設置以前から現在までの海浜地域の状況と市民グループの自然保護活動、自然環境保全意識の普及啓発などを報告しました。

また、フォーラムの前日、大学、研究機関の話題提供者らが石狩浜の現地視察調査と合わせて、当センターで「海浜植物の減少と保全・復元に向けた対策」と題した勉強会も行い、石狩浜はじめ各地の自然情報について意見交換をしました。

3. 植物開花状況等調査

石狩浜定期観察の会では、はまなすの丘で4月から10月までの月2回、植物の開花状況等の情報を収集しています。平成20年度は、延べ133名が活動に取り組みました。収集した情報は、開花情報としてこれまでのセンター展示室のほか、平成20年度からはまなすの丘ビジターセンターと市民図書館にも掲示をしています。

4. スナジホウライタケの病原性に関する接種実験

スナジホウライタケは、オオハマガヤ（イネ科）の病原菌であることが北米で知られています。日本では、その病原性に関する報告がないので、NPO法人 北方菌類フォーラムが、石狩浜で採集したスナジホウライタケの培養菌を見本園内の自生ハマニンニク（イネ科）に接種し、その影響を調べました（実験期間：5月3日から10月31日）。

結果は、病原発症まで時間を要しましたが、接種したすべてのハマニンニクが枯死しました。枯死したハマニンニクの一部からスナジホウライタケが再分離できたので、その病原性については明らかになりましたが、今回の実験結果からは、ハマニンニク枯死の主因がスナジホウライタケ単独なのか、病原菌侵入の経路、発症の経過、生活環等の解明に至っていないので、次年度においても引き続き調査研究を継続していきます。

（実験協力関係機関：独立行政法人 産業技術総合研究所、筑波大学 植物寄生菌類学研究室）



5. 自然情報の収集・まとめ

これまで発行している当センター調査研究報告は、表2-1のとおりです。

表2-1 石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告

報告書名	号数
石狩浜における植生モニタリング区の設置と14年間の植生変化（2002年度調査）	1号
石狩川河口湿地部における植生モニタリング区設置と植生概況（2003年度調査）	2号
石狩海岸林の植生概要（2004年度調査）	3号
石狩浜定期観察による植物開花状況の記録（2004/2005）	4号

3. 見本園の整備・苗の育成

1. 見本園

センターの見本園は、展示施設に隣接した約 2,100 m²の敷地です。約半分は自然植生ですが、石狩浜で見られるおもな植物が観察できるよう、温室で種子から育てた苗も移植して、自然に近い海浜植生をつくっています。

平成 12 年度のオープン以来、裸地への移植を積極的に行ってきましたが、現在では、ハマニンニクとコウボウシバの繁茂が著しく、他の海浜植物が観察しづらい状況になったため、刈り取りや掻き起こしによる除去を行っています。また、ススキやアキグミ、外来植物も増えたため、これらも積極的に除去しています。

移植した海浜植物は、数年で株が衰退してくるので、新たに育成した苗を移植しています。

温室の南側は、はまなすの丘の湿原に自生するおもな植物を観察することができるよう、湿地環境をつくり、タチギボウシやノハナショウブなどを移植しています。

平成 18 年度に、センター内でハマボウフウの種子採取をできるよう、温室と展示室の間に播種したハマボウフウが順調に育っています。



図 3-1 見本園概況

2. 苗の育成・移植・提供

センターでは、見本園や裸地化した海浜地などへの移植、市民への普及啓発のための配布、試験研究への提供を目的として、約 20 種の石狩浜自生植物の苗を作っています。平成 20 年度も、市民が身近に海浜植物に親しめるよう、市内の公園 2 箇所の花壇に苗を補植し、管理は地元のボランティアの方々が行っています。これまでも、見本園および弁天歴史公園への散策路沿いに移植したほか、依頼に応じて学校や試験研究等へ提供しています。

表 3-1 平成 20 年市街地公園花壇への海浜植物移植状況

移植公園	目的	海浜植物
紅南公園 花川南公園	海浜植物花壇づくり	エゾカワラナデシコ、ノコギリソウ、 エゾカワラマツバ、ウンラン、イソ スミレ、ハマハタザオ、コガネギク、 ハマボウフウ、ナミキソウ、エゾス カシユリ、カセンソウ

表 3-2 平成 20 年海浜植物苗の提供状況

移植・提供先	目的	提供苗、種子
まきばエコクラブ (まきば保育園)	海浜植物園づくり	ハマヒルガオ、ハマボウフウ、エゾ カワラナデシコ、ハマハタザオ、ハ マエンドウ
北海道工業大学 石狩市環境課	紅葉山公園における湿生植 物による水質浄化試験	ノハナショウブ、タチギボウシ、ク サレダマ、ナガボノシロワレモコウ

4 . 環境整備事業

石狩浜の自然に親しみやすい環境づくりのため、観察路の維持と外来植物の除去を行いました。

1 . 親船名無沼観察路

通称親船名無沼は、平成 17 年度に行った動植物相調査により、多様な水生動植物が生息生育することがわかりました。毎年 6 月から、多くの人が沼の自然に親しめるよう、道路から沼岸まで近づける歩道、観察場を整備しています。



図 4-1 通称親船名無沼の位置

2 . 石狩浜海浜植物保護センター～弁天歴史公園散策路

これまで、石狩浜海浜植物保護センターから弁天歴史公園などの周辺施設へ行くには、車道を歩かなければなりませんでした。海浜植物などの自然に親しみながらのんびり散策して廻れるよう、「石狩浜海浜植物保護センター」→「弁天歴史公園」→

ブロンズ像「無辜の民」→「ヴィジターセンター」を結ぶ散策路を検討しています。

これまで、石狩浜海浜植物保護センターから弁天歴史公園までの間に、海浜植物群落やニセアカシア林を通る散策路を整備しました。



図 4-2 海浜植物保護センターから弁天歴史公園までの散策路のルート

3. 外来植物等の除去作業

はまなすの丘の木道周辺は、多くの観光客や散策者が訪れ、石狩川河口の海浜植物群落の景観を楽しむ場所ですが、ニセアカシア、カモガヤなどの外来植物及び内陸性植物のススキが増加し、景観が損なわれつつあります。景観保全のため、木道周辺の外来植物等の除去に取り組んでいます。

平成 20 年度は以下のとおり実施しましたが、除去が必要な箇所はまだ多く残っており、今後も継続していきます。

表 4-1 外来植物等の除去作業実施状況

日にち	参加者数	参加団体等
4月25日(金)	40名	センター活動支援ボランティア、石狩市緑化推進協議会、
10月17日(金)	約40名	石狩浜定期観察の会、ふるさと自然塾、石狩観光協会、 センター運営委員会、石狩観光協会、石狩植物愛好会 ほか

5. 来館者数

平成 20 年度の開館期間中（4 月 29 日～11 月 3 日）の来館者数は、7,929 人でした。月別来館者数は、図 5-1 に示します。また、平成 12 年度からの来館者数の変化を図 5-2 に示します。

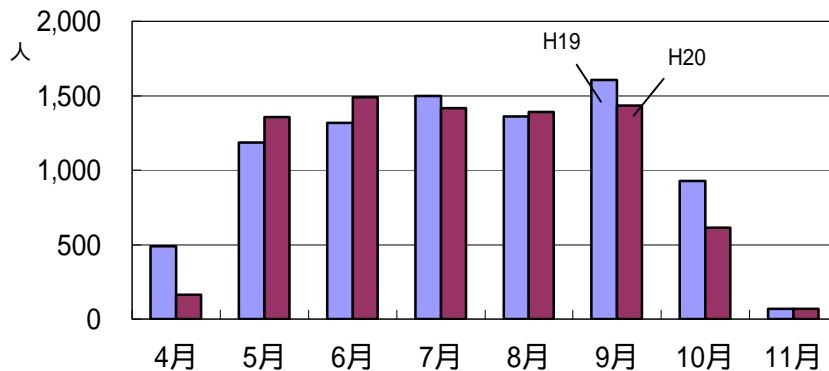


図 5-1 平成 19 年度、20 年度来館者数の季節推移

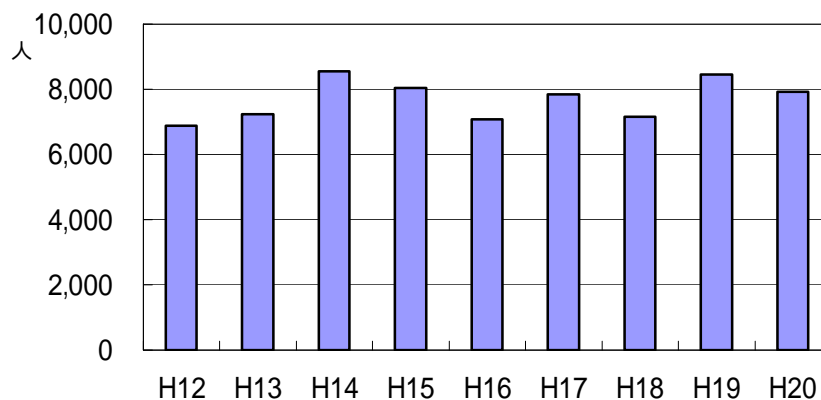


図 5-2 平成 12～20 年度の来館者数の年変化

6. 保護・回復対策

1. 石狩川河口海浜植物等保護地区の監視

石狩市石狩川河口海浜植物等保護条例によって定めている石狩川河口海浜植物等保護地区において、4 月から 10 月まで、監視員 2 名により、ハマボウフウなど海浜植物の採取や、バイク等の乗入れ等を防ぐための監視を行いました。

春先はハマボウフウの採取者が多く、監視による採取防止効果は大きいと思われま。また、海水浴シーズンは、キャンプ等で保護地区内に進入する利用者が多く、秋にはハマナスの実を採取する人が増えるなど、季節を通じた監視が必要となっています。

平成 18 年度からは、保護地区の看板の数を増やす、海側から保護地区への立ち入りを防ぐためのロープ柵を延長するなどして、保護地区への立ち入り防止対策を強めています。

2. 車乗入れ防止柵の設置・維持管理

図 6-1 に示すとおり、石狩浜海水浴場を挟んで東西に約 1km の範囲は、平成 4 年より石狩市が車乗入れ防止柵を設置し、車走行による植生の破壊を防いでいます。平成 20 年度も、引き続き柵を設置しました。

石狩湾新港側約 3km の海岸保全区域には、北海道札幌土木現業所が、「石狩湾沿岸海岸保全基本計画」(平成 15 年、北海道)に基づき、車乗り入れ防止柵を設置しました。

しかし、どちらの地域においても、サンドバギー車やモトクロスバイクがトラロープを切ったり、かいくぐったりして植生上へ進入している状況が複数回確認され、特に石狩湾新港に近い箇所では進入が多いことがわかりました。

切断されたロープについては、札幌土木現業所が管理する区域においても、協議により、定期的に補修しました。

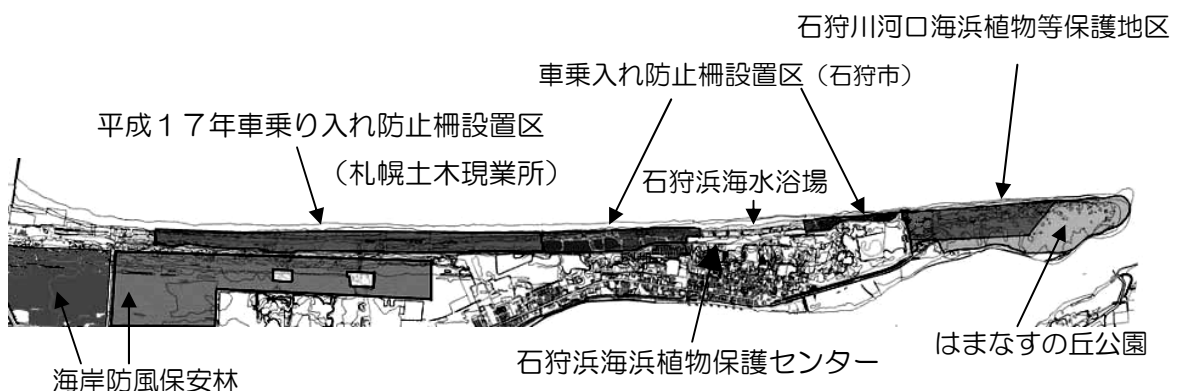


図 6-1 車乗り入れ防止柵設置区および保護区の位置

3. 石狩川河口海浜植物等保護地区の拡大

海浜地の用途廃止に伴い、海岸法(平成 12 年度改正)の規制から除外された約 3ha を、平成 19 年度に保護地区として再指定しました。これにより、保護地区は計約 16.5ha となりました。

4. (仮称) 石狩海岸環境保全連絡会議の設置

石狩湾新港から三線浜、石狩川河口(右岸地区含む)に至る、石狩浜の保全対策を検討するための関係行政機関による(仮称)石狩海岸環境保全連絡会議を設置しました。会議の構成は、海岸防風保安林を所管する石狩森林管理署、海浜地のうち海岸保全区域及び一般海浜地を管理する札幌土木現業所、港湾区域を管理する石狩湾新港管理組合及び石狩市(当センター)です。

初回は、それぞれの現状の保全対策や抱える課題、今後の対策等について話し合い、将来的には利用者、自然愛好者らも参加する組織に拡大していく方向で参加者の意見が一致しました。

資料

行事参加者アンケート結果

1. 自然観察会・企画講座（回答数 5/31：20、6/14：28、7/12：14）

この観察会は何で知りましたか？		どのようなことを期待して参加しましたか？	
広報いしかり	16	自然とふれあう	34
ちらし	1	動植物の生態について学ぶ	25
新聞	35	植物の名前を覚える	33
その他（通信誌・HP など）	14	石狩浜について知る	37
		石狩浜のガイドや学習指導に活かす	6
		絵手紙や俳句などの材料集め	4
内容はいかがでしたか？		家族とのふれあい	2
とてもわかりやすかった	28	体を動かす	15
わかりやすかった	25	その他	1
ふつう	4		
わかりやすかった	0		
聞こえにくかった	9		
難しかった	0		
もっと詳しく聞きたかった	3		
もっと歩きたかった	2		
その他	3		

2. こども自然教室（回答数 6/22：20、8/7,8：3、9/20：29）

楽しかったこと、よかったことは？(6/22)		楽しかったこと、よかったことは？(8/7,8)	
フィールドビンゴ	15	センターの展示で石狩浜の自然を学ぶ	0
リースづくり	0	見本園で植物と虫の観察	1
カシワ林	0	標本作り	1
砂浜に流れ着いたものさがし	5	おべんとう	0
おべんとう	5	花のスケッチ	0
ジャムづくり	0	砂浜での植物観察	2
クラフト	3	まとめ（ポスター作り）	2
いろんな発見があったこと	9	いろんな発見があったこと	1
友だちができたこと	6	友だちができたこと	0
親子でふれあえたこと	6	親子でふれあえたこと	0
その他	1	その他	0

楽しかったこと、よかったことは？(9/20)

ジャンケンゲーム	5	クラフト（工作）	22
木のセリフ	5	いろんな発見があったこと	9
フィールドパターン	9	友だちができたこと	5
砂浜に流れ着いたものさがし	10	親子でふれあえたこと	0
おべんとう	2	その他	0
ジャムづくり	17		

つまらなかったこと、嫌だったことは？	6/22	8/7,8	9/20
ある（暑かった、長かった等）	2	1	3
ない	17	2	26

指導はわかりやすかったですか？	6/22	8/7,8	9/20
とてもわかりやすかった	8	2	21
まあまあわかりやすかった	6	1	9
わかりにくかった	0	0	0

石狩浜海浜植物保護センター利用者アンケート結果

(回答数 6)

どちらからおこしになりましたか		石狩浜へは年に何回来られますか	
石狩市内	0	今回が初めて	4
札幌市	0	数年に一回	1
上記 2 市以外の北海道内	2	年に一回	0
北海道外	4	年に複数回	1

当センターについて何で知りましたか		当センターの利用目的は？	
新聞・情報誌	0	自然学習や情報の収集	1
インターネット	1	行事への参加	0
ヴィジターセンターでの情報	1	観光・見学	5
看板	0	休息	0
この場所を通りかかって	4	その他（学校の実習など）	0
口コミ	0		
その他（学校・スタンプラリーなど）	0		

センターを利用して良いと思われた点、改善した方がいいと思われた点、感想等

- ・ きれいにしてあって気持ち良かった。
- ・ とてもよくわかるとこ。
- ・ きれいです。展示もいいです。職員も親切。トイレもきれいです。
- ・ 静かすぎる。植物のタネシリーズは良いと思います。自然の素材で工作が出来ると良いと思った。
- ・ とてもきれいで、気持ちよく見学することができました。展望台や屋外にも見本園があって「さわってみようコーナー」などいろいろなことを楽しむことができました。特に自然情報カメラは360度をしかもズームとピント付きで見ることができて面白かった。
- ・ 無料で自然情報が得られるところは大変良い。種をいただいたので、自宅で育ててみたい。展望コーナーも良かった。自然情報カメラは大変面白い。

沿革

海浜植物保護センター開設の目的

石狩海岸地域は、北海道自然環境保全指針において「すぐれた自然地域」に抽出されるとともに、大都市近郊において、海岸砂丘生態系を色濃く残す自然海岸として、全国的にも大変貴重な場所となっています。しかし、美しい海浜植物や雄大な海浜景観は、レジャーをはじめとする過度な利用により、次第に失われつつあります。

このような状況において、豊かな海辺の自然を市民共有の財産として保全し、後世へ残して行くためには、市民、行政、研究機関とが協働して普及啓発活動や調査研究活動に取り組むことが不可欠です。石狩海浜植物保護センターは、その活動拠点として、平成12年4月に開設されました。

施設と業務内容

施設は、海浜植物の保護についての調査・研究、石狩浜保全への啓発、を目的としたもので、屋内は、大きく展示室と実験室、屋外は、温室と見本園に分かれています。

展示の方針は、来館者に海浜植物をはじめとする石狩浜の自然情報の提供や保全活動状況の紹介、作品展示などを行うことができる、更新性を備えた市民参加型の展示としています。また、展示室は研修機能を備え、フィールドと一体となった研修の場を提供しています。

見本園は、石狩浜に生育する海浜植物を一同に集め、その生態観察、および市民による移植を行う場となっています。なお、一部は、調査・試験区となっています。

調査研究機能としては、保全に向けた海浜植物の生態研究のために、実験室、および研究対象植物を育成するために温室が備わっています。また、温室は、見本園や植生復元のために移植する苗を育成する場所となっています。

海浜植物保護センター施設略図



以下、保護センターにおける主要業務を示します。

啓発・普及業務

展示施設・見本園の整備・更新

施設見学者への対応

市民講座・観察会等の開催

市民に対する情報提供・機関紙の発行・ホームページの管理・運営

ボランティア・各種団体・研究機関との連絡調整

調査・研究業務

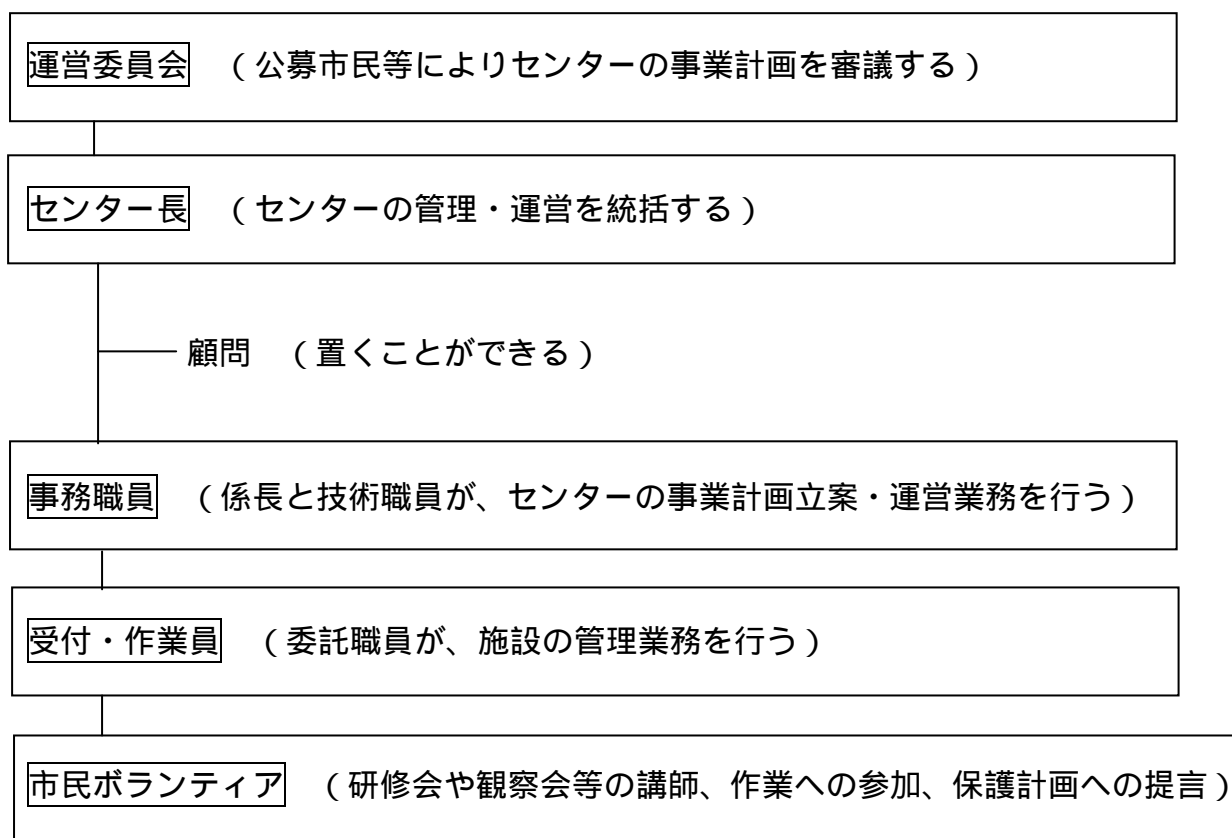
石狩浜の動植物の生息、生育状況に関する調査

海浜植物の復元と増殖に関する研究と実施

海浜植物の保護・保全計画の立案と実施

ボランティアグループの調査研究活動支援

管理運営・組織図



平成20年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告書

平成21年5月発行

発行 石狩市

編集 市民生活部石狩浜海浜植物保護センター

開館期間中 〒061-3372 石狩市弁天町48-1

tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146

冬季閉館中 〒061-3292 石狩市花川北6条1丁目30-2

tel.0133-72-3240 fax.0133-75-2275

E-mail ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/kaihinsyokubutu/index.htm>